

運用モデル「お茶の間銘柄」の概要について

| | |
|---------------|------------------------------|
| 1 運用モデルの名称 | お茶の間銘柄 |
| 2 投資対象 | 全上場銘柄 |
| 3 資金枠 | 500万円程度(原則、6銘柄を上限とする) |
| 4 空売りの活用 | あり |
| 5 投資スタンス | 基本はスイング(※1) |
| 6 銘柄の選出方法 | 増田足の原理原則を元に所員各自が持ち寄り、適宜、決定する |
| 7 参戦・撤退の通知方法 | 日刊チャート新聞紙上、及び、メール配信で行う(※2) |
| 8 同通知のタイミング | 寄り前・昼休み・引け後・立会時間中、いずれのケースもあり |
| 9 ロスカットの設定 | 参戦の際に明示する |
| 10 目標値の設定 | 運用成績表の中に備考欄を設け、適宜、記載する |
| 11 運用成績の表示 | 引け後、日刊チャート新聞紙上で成績表を日々更新する |
| 12 フォローアップ・解説 | 「お茶の間教室」の中で行う(※3) |

※1 参戦後の値動き如何で、引っ張れるものは、適宜、引っ張ります。

また、市況の急激な変化に伴い、結果的にデイトレードとなることもあり得ます。

※2 メールによる配信(通知)を希望する方は、日刊チャート新聞内の「各種メール配信設定」、

または、株桜「総合案内」の「各種メール配信設定」で設定を行って下さい。

※3 上記7、及び、12に準じて電話・メールによる個別の問い合わせには、原則、応じません。

弊社が提供する情報は投資等の勧誘を目的としたものではなく、将来の運用成果を保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断なされるようお願い致します。当該情報によって生じたいかなる損害についても、弊社は一切責任を負いかねます。

株式投資は、株価が上下することから投資元本を割り込むことがあります。また信用取引や有価証券関連デリバティブ取引においては委託した証拠金を担保として、証拠金を上回る多額の取引を行う場合、これにより生じた損失の額が証拠金の額を上回ることがあります。

詳細は弊社ホームページ「金融商品取引法に係る表示」をご覧ください。

www.masudaasi.com/riskinfo/

掲載されている内容の著作権は弊社に帰属しており、許諾なく複製、公衆送信、改変、頒布、転載等の行為は禁止します。